

アジア・オセアニア地域におけるサンゴ礁保全に向けた情報基盤整備事業

(1) 事業の概要

海洋保護区(MPA)の設置や効果的管理を通じた海洋の生物多様性保全の必要性について、世界的な認識が高まっており、生物多様性条約COP8において「世界の海洋及び沿岸域の少なくとも10%が効果的に保全されるべき」との数値目標が決議されている。

こうした中、平成20年11月に開催された国際サンゴ礁保護区ネットワーク会議において、関係各国等と東アジアを中心とした海域で重要サンゴ礁ネットワーク戦略を策定していくことに合意した。

本事業では、同戦略策定に向け、ALOS AVNIR2のリモートセンシングデータ等を活用して、東アジア、オセアニア地域の最新のサンゴ礁分布図の整備を行うことを目的とする。

(2) 事業計画

- 1) 国産人工衛星ALOS AVNIR2の衛星画像を活用し、東アジア・オセアニア地域のサンゴ礁分布図を作成。
- 2) 対象範囲内の地域特有のサンゴ群集を持つ場所等で、現地調査を実施。
- 3) 2)で収集した情報及び既存の情報を統合して、1)で作成したサンゴ礁分布図を更新することで、精度を向上。

(3) 事業実施主体 民間団体

(4) 予算額 155百万円

アジア・オセアニア地域におけるサンゴ礁保全 に向けた情報基盤整備事業

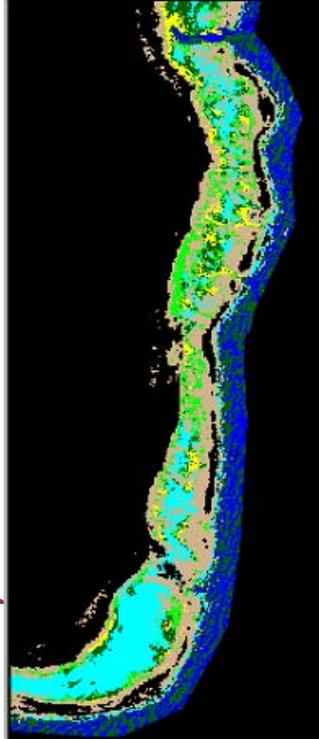
- 東アジアサミットで福田元総理が協力を発表 (H19年11月)
- G8環境大臣会合で日本の取組として発表(H20年5月)
- 国際サンゴ礁保護区ネットワーク会議で方針決定(H20年11月)
- 太平洋島サミットでサンゴ礁保全の取組として位置付け予定 (H21年5月)



人工衛星だいちの画像取得

画像解析
1500シーン

現地調査
(10箇所)



十分に保全されていない
重要サンゴ礁の抽出

日本の貢献として
COP10で発表

重要サンゴ礁
ネットワーク戦略
の策定

海洋保護区の設置等
による保全の促進



アジア・オセアニア地域の サンゴ礁分布図の作製

ICRI地域会合
H21年度

海洋保護区
データベース
の活用

ICRI地域会合
H22年度

ICRI:国際サンゴ礁イニシアティブ